

わかったクンの校内散歩

R5・6・14



【体験を通して、言葉を育む】

「ペタペタ」「トントン」と、幼稚園の子どもたちの元気な声が聞こえます。声のする方へ向かってみると、外で、小麦粉粘土遊びをしていました。

手や顔(?)を真っ白にしながら、粘土をこねていました。教師が子どもの動きに「トントン」や「コロコロ」とことばを付け、それを聞いた幼児も「トントン」「コロコロ」と口声模倣をしながら手を動かします。手を使うことに興味のない子には、「足で、ペタペタ踏んでみる?」と、活動に誘います。右足・左足と足で粘土を踏みつけ、手とは違った感触を楽しんでいました。その様子を見て、周りの子どもたちも、興味が広がり、順にトライ!

中には、教師の手を握ってジャンプする子どもも……。すかさずその動きに教員が言葉を付け、伝えます。子どもの思いを「共感」しながら体験を通して言葉が育まれています。

